

(2020 志文) 模擬講義レポート

(問題部分 1 ~ 4 ページ)

注意事項

- (1) 使用できるもの：黒鉛筆・シャープペンシル・プラスチック製の消しゴム・小型鉛筆削り，時計等「受験者心得」で指示したもの，模擬講義資料。
- (2) 受験番号欄は各答案用紙の解答欄と評点欄の 2 か所，氏名欄は解答欄に 1 か所あります。受験番号は 5 けたの数字を枠内に 1 字ずつ明確に記入してください。
- (3) 受験番号及び氏名を指示されたところ以外に記入した場合や受験番号の数字が判別できない場合，採点の対象になりません。
- (4) 解答は，黒鉛筆またはシャープペンシルで答案用紙の所定の枠内に明確に記入してください。
- (5) 答案用紙の裏面には何も記入してはいけません。
- (6) 答案用紙に指示された以外のことを記入しても採点の対象になりません。
- (7) 日本語で字数指定のある解答については，句読点も 1 字に数えます。2 けた以上の算用数字は，答案用紙の 1 マスに 2 けたの数字を記入し，1 字に数えます。

例：

「	青	か	っ	た	。	」
---	---	---	---	---	---	---

 7 字 /

20	20
----	----

 2 字

1. (配点率 16%) 次の【資料 1】は、イギリスの 13 の植民地の推定人口を示しています。人口が急増したメリーランド植民地やヴァージニア植民地では、タバコ栽培が盛んでした。1700 年以降においてそこに居住した人たちの中で、タバコ栽培の労働者の多くは、どこからどのような経緯で植民地に来たのですか。模擬講義の内容を踏まえて、45 字以内で説明しなさい。

【資料 1】

著作権保護の観点から、
問題は掲載していません。

2. (配点率 20%) アメリカ合衆国におけるアファーマティブ・アクションは、憲法の精神に反するのではないかという批判があります。それはなぜですか。【模擬講義資料】のスライド No. 28 および No. 29 の説明を踏まえて、その理由を考え、140～160 字で説明しなさい。
3. (配点率 20%) 【模擬講義資料】のスライド No. 41 の「るつぼ」論とはどのような考え方ですか。また、「るつぼ」論の問題点は何ですか。模擬講義の内容を踏まえて、「るつぼ」論の考え方とその問題点について 130～150 字で説明しなさい。

4. (配点率 44%) アキコとタダシは、アメリカ社会に関する授業（本日の模擬講義と同じ内容）に出席した大学生です。授業の後で、次の【資料2】～【資料4】および【模擬講義資料】のスライド No.3 について会話をしています。本日の模擬講義の内容を踏まえて、下の会話文の空所（ア）～（エ）に適切な表現を入れ、会話を完成しなさい。ただし、それぞれの空所の後に示された[]内の字数で答えること。

【資料2】

著作権保護の観点から、
問題は掲載していません。

【資料3】

著作権保護の観点から、
問題は掲載していません。

【資料4】

著作権保護の観点から、
問題は掲載していません。

【会話文】

アキコ：きょうの授業どうだった？

タダシ：アメリカの歴史や社会については、割と知っているつもりだったけれど、新しい情報も意外とたくさんあったかな。

アキコ：私もそうだわ。

タダシ：ところで、授業のあとで配られた資料について質問していいかな？

アキコ：3種類の資料をもらったわね。次回の授業までに考えないといけない課題が出されたわ。

タダシ：そのことなのだけれど。まず、【資料2】では、「2016年の大統領選挙において、得票数で対立候補を下回ったトランプ候補が勝利したのはなぜか」というのが課題だったね。

アキコ：そう。答えは、簡単でしょ。

タダシ：そうだと思うのだけれど、うまく説明できないんだ。

アキコ：アメリカ大統領選挙の制度について考えればいいのよ。大統領選挙では、各州に割り当てられた大統領選挙人を総数で最も多く獲得した候補者が大統領に選出されるでしょ。そして、大統領選挙人は、一部の州を例外として、
(ア) [100字以内]という可能性があるのも、選挙に勝利することもある、というわけなの。

タダシ：なるほど。じゃ、【資料3】についてはどうかな。

アキコ：これは、ニューヨークの自由の女神像の台座に彫られている詩人エマ・ラザ

ラスの詩であると、資料を配付するとき先生が説明されていたわね。

タダシ：この【資料3】に関する課題は、この詩のメッセージはなにか、ということだったね。この点は、どう思う？

アキコ：そうね、簡潔に言えば、(イ) [20～30字]というメッセージかな？

タダシ：なるほど。さすがアキコさんだね。ところで、「双子の都市をつなぐ架け橋」ってなにかな？

アキコ：ブルックリン橋のことだそうよ。1886年に自由の女神像が建てられた頃は、ニューヨークとブルックリンは別の都市だった、と以前先生が説明されていたわ。覚えていない？

タダシ：ぼくは、その授業は欠席していたのかな？それはともかく、英語を公用語として採用した州とその年代を示した【資料4】はどのような意味があるのかな？

アキコ：それが、この【資料4】に関する課題ね。

タダシ：英語がアメリカの公用語というのは当たり前のことだと思うのだけれど。

アキコ：私もそう思っていたの。でも、この前、言語政策の授業に出たとき、アメリカ合衆国では、憲法で公用語を規定していないことを初めて知ったの。

タダシ：あっ、そうなんだ。知らなかったなあ。ところで、公用語のことだけれど、アメリカは移民の国だろ。移民の流入が増加すると、英語を話せないアメリカ人の数が増える。そうすると……。

アキコ：そうすると、非英語話者が教育上不利にならないような配慮が必要になる。1968年に2言語教育法が制定され、その後何回かの改正を経て、政府の補助金も大幅に増額した、というところまではあの授業の後で調べたの。さて、それと公用語運動とはどのような関係があるのかな？

タダシ：あっ！ひらめいたよ。2言語教育は一面いいことだと思うけれど、アキコさんが調べた内容に関連する点と、それに加えて、国家というレベルで考える点をまとめるといいと思う。つまり、(ウ) [40字以内]という、少なくともその2つの問題が生じるのではないかな。

アキコ：なるほど。タダシくん、すごい！

タダシ：たまにほめられると、うれしいね。これで、3つの資料に関する課題はなんとかかなりそうだ。あとひとつ聞いてもいいかな？

アキコ：ええ、どうぞ。

タダシ：先生は、日本人のアメリカに対するイメージのアンケート調査でなにを伝えたかったのかな？

アキコ：スライドNo.3(【模擬講義資料】)のことね。このアンケート調査の回答者の多くは、アメリカ社会の文化的側面を白人中心の観点で捉えているのではないかな？

タダシ：そうだね。大多数の回答者の理解では、アメリカ社会は文化的側面からみると(エ) [60～80字]、という事実を無視していると思う。

アキコ：「アメリカ」がアメリカ合衆国のことだとしても、アメリカ社会を捉えるときには、合衆国成立以前の北アメリカ大陸における文化の継承も考慮する必要があるということ、先生は私たちに伝えたかったのではないかしら。

タダシ：きっと、そうだね。いろいろ勉強になったよ。どうもありがとう。